

にたつはたのしみなり、此外たのしき事はいか程あるべし、然れども人は欲心深き物なるゆへ、我勝手によき事はたのしみとをもはず、たまたま勝手にわるき事あれば、くるしみなげくなり、平目のまのあたりたのしむべき事あるをば、たのしませずして、別にたのしみをもちむるは、おろかなる事なり、くるしむもたのしむも、我心の持やうにあるなり、外より来る事はあらず、

〔日本書紀^二代〕大己貴神對曰、當問我子、然後將報、是時其子事代主神、遊行在於出雲國三穗^三、^{三穗}此之碕、以釣魚爲樂、或曰遊鳥爲樂、

〔萬葉集^九雜歌〕檢稅使大伴卿登筑波山時歌一首并短歌

衣手常陸國二並筑波乃山乎欲見君來座登略○中男神毛許賜女神毛千羽日給而時登無雲居雨零筑波嶺乎清照言借石國之眞保良乎委曲爾示賜者歡登紐之緒解而家如解而曾遊打麿春見麻之從者夏草之茂者雖在今日之樂者、

〔古今和歌集^一春〕をめぐり、ささき明子良房女、原のおまへに花がめに櫻の花をさ、せたまへる

をみてよめる、

さきのおほきおほいまうちぎみ良房原

年ふればよはひはおいぬしかはあれど花をしみれば物思ひもなし

〔新撰字鏡^日〕嗤^嗤 同充之子之反、^{戲也}申略和良不、^罵許延反、^笑貌和、^呵也呻反、^張口貌、^舍

〔類聚名義抄^二〕嚇^{音赫} 晒^ア或忍反、^ヲ音葉、^咽音葉、^笑上通、^下正忠妙反、^ヲラフ、^笑二正、^咲俗、^噉俗、

〔同^九〕歔^{呼括又呼冀反} 歔^ヲラフ、^劇ヲラフ、^{〔同^八〕}笑^咲二正、^咲俗、^噉俗、

〔伊呂波字類抄^和事〕咲^ヲラフ、^晒自晒、^咄噉、^哈愁、^听啗、^嘲譁、^笑嗤、^噉噉、^啞啞

惱 愁 譁 弄 噉 咲 味^{己上} 咄 噉 哈 愁 听 啗 嘲 譁 笑 嗤 噉 啞

〔運步色葉集^和〕咲^ヲラフ